

ベテラン会員に教えられる

東京 大井 康雄

去る三月、新宿京王プラザホテルで行われた第三五八地区年次大会に出席した。

部門別協議会で私はクラブ奉仕部門の「退会者に対する問題点及びその対策」協議会に末席を汚した。

リーダーの東京多摩、波里光徳氏は「第三五八地区会員数分布状態(昨年七月一日現在)今年度前半期に於ける会員の増減表、各RCに於ける会員の増減表、退会理由の調査表、退会年限の調査表並に一九七六年七月一日～十二月三十一日までの第三五八地区会員数増減クラブ」等を基に、右のテーマについて纏々説明した。しばらくして質疑応答の時間になると、活発な質問がでた。

しかし、わがクラブの荒木東一郎サンは、ロータリー歴四九年のベテランとして、およそ次のような貴重な意見を述べられ、満場を丘した感があった。

「最近の例会状況からみると、さながら単なる昼食会の風景である。そもそも米山梅吉サンが自分達に入会をすすめたときは、米山梅吉サンが二度ないし三度も、ロータリーのこ

とについて種々説明し納得させたものだ。現在の状態とは随分違っている。そんなワケで、いま、会員の頭数のみを多くすればいいというお考えよりも、ロータリーというものを本当に理解して人達だけの集りを主とすべきではないか。入会、退会のデータも結構ですが、会員の数ばかりいじくっても駄目で、要は量より質にあるんではありませんか」

率直に言って、この協議会は荒木サンのご意見で始まり終った感もしたと同時に、私も世の中がどう変ろうとも、矢張り「原初ロータリー」の姿をいま一度勉強せねばなるまいと思つた。

二日目。「新ポールハリス・フェローの朝食会と米山記念奨学会功労者朝食会」がRI会長代理並に地区ガバナー出席の下で行われたが、わが荒木サンはご夫人と共にモーニング着用での出席であつて、この朝の清清しさに加え、一種の崇高さのようなものを感じた。モーニング着用は本当のロータリー精神を知悉していればこそであつたでしょう。正直いって感激した。因に東京からの新ポールハリス・フェローは七名となつていた。

荒木サンの協議会に於けるご意見といい、モーニング着用といい、私はあらためて教えられるもののあることを感じた。それを率直に告白する。年次大会に出席してよかつた。

最後に、岩村博士のネパールでのご活動についての講演のすばらしかったことを追記しておく。

(ポトレット)

(附記・荒木東一郎会員は本年五月十五日心不全で急逝されました。謹んでご冥福を祈ります)